

公認心理師カリキュラム等検討会 ワーキングチーム ヒアリング 資料

<内容>

はじめに 日本学術会議 心理学・教育学委員会の取り組み

1. カリキュラム

1-1 大学における必要な科目

1-2 大学院における必要な科目

1-3 大学院における実習・演習

2. 国家試験

日本学術会議 心理学・教育学委員会

「健康・医療と心理学分科会」

「心理学教育プログラム検討分科会」

説明者：丹野義彦（東京大学総合文化研究科）

国家資格とカリキュラムについて

日本学術会議 心理学・教育学委員会の取り組み



- 1949年 日本学術会議発足
- 2005年 組織改革により新制学術会議(第20期)
心理学教育検討分科会および健康・医療と心理学分科会が発足
- 2008年 対外報告「**学士課程における心理学教育の質的向上とキャリアパスの確立に向けて**」
心理学の学科を卒業した者のキャリアパス開拓
- 2008年 提言「**医療領域に従事する『職能心理士(医療心理)』の国家資格法制の確立を**」
心理学卒業者の国家資格化への提言
- 2014年 報告「**大学教育の分野別 質保証のための教育編成上の参照基準 心理学分野**」

「参照基準」とは、大学生の学力低下を背景に、2008年中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」(大学学生の「学士力」の質保証)とともに、2008年文部科学省高等教育局が日本学術会議に依頼して、各分野で基本カリキュラムを策定したもの。心理学、法学、哲学、社会福祉学、物理学など25分野で策定。

大学の心理学教育に責任をもつ主体として「大学学部で心理学を学ぶこと」の目的、方法、基本カリキュラム、評価を整理した

⇒大学学部で心理学を履修する「公認心理師」の学部カリキュラムには必須

- 2015年~ 公益社団法人 日本心理学会「公認心理師に係るワーキンググループ」と合同でカリキュラム提案

1. カリキュラム

1-1 大学における必要な科目

目標

現代心理学の成果と方法論を体得し、そのうえで公認心理師5領域の知識を修得した準専門家を養成

公認心理師の知識教育は学部で完成。大学院では技能の実習に専念。
学部4年＋大学院2年の「6年教育」で公認心理師を養成。
心理学ワールドと関連団体が全体で育てる公認心理師制度。

方法

「公認心理師学部カリキュラム」(次ページ)による。

文部科学省諮問の日本学術会議の「心理学参照基準」を基本理念。

三団体学部カリキュラム案にもとづくが、すべて必修科目として設定。

評価

1. 「標準シラバス」を作成し「理解すべきねらい」と「教育に含むべき事項」を策定し教育内容を担保する。のちには標準教科書を作成する。

2. 試験実施機関は各大学の科目の認定をおこない、教育の質を担保する。

3. 大学の科目担当教員は、標準シラバスを参考に、シラバスと到達目標を公表。教員は、各学生の到達度の可否を試験やレポートで評価。

1-1 大学における必要な科目 公認心理師学部カリキュラム

科目分類名	大項目	中項目	単位数
			計 60
1. 心理学 基礎科目	心理学概論		2
	心理学研究法		2
	心理学統計法		2
	心理学基礎実験実習		2
	心理アセスメント実習		2
	卒業論文		6
2. 心理学 発展科目	A 認知心理学関連科目	認知・知覚心理学（思考心理学を含む）	2
		学習・言語心理学（行動分析学を含む）	2
		感情・人格心理学（深層心理学、感情科学を含む）	2
	B 生物学的心理学関連科目	認知神経科学（生理心理学を含む）	2
		神経心理学（臨床神経心理学、臨床神経学を含む）	2
		比較心理学（比較認知科学、比較行動学、動物心理学、進化心理学を含む）	2
	C 社会・産業心理学関連科目	社会・集団心理学（対人関係論、家族心理学を含む）	2
		産業・組織心理学	2
		福祉心理学 （コミュニティ心理学、社会福祉学を含む）	2
	D 発達・教育心理学関連科目	発達心理学（乳幼児心理学、児童心理学、青年心理学、高齢者臨床心理学、老年心理学、生涯発達心理学を含む）	2
		教育心理学 （教育評価、教授心理学、学校心理学を含む）	2
		障害児(者)心理学（発達臨床心理学、教育臨床心理学を含む）	2
	E 臨床心理学関連科目	臨床心理学(心理療法論・カウンセリング心理学、認知行動療法論、集団心理療法論、リハビリテーション心理学を含む)	2
		心理検査法	2
		医療心理学 （健康心理学、ストレスマネジメント論を含む）	2
		司法・矯正心理学 （犯罪心理学を含む）	2
	F 隣接関連科目	臨床医学（内科学、小児科学を含む。また医療の実践に必要な知識を含む）	2
精神医学		2	
教育学（学校教育制度論、教育経営学、社会教育学を含む）		2	
3. 心理実 践・実習科 目	心理面接実習		2
	公認心理師概論		2
	心理実践実習		2

大学卒業要件は124単位。
教員免許の一種免許状(学士)67単位など
と比べ、過大な負担とはいえない

1-1 大学における必要な科目 1.心理学基礎科目

1. 心理学基礎科目

三団体案

科目分類名	大項目	単位数
1. 心理学 基礎科目	心理学概論	2
	心理学研究法	2
	心理学統計法	2
	心理学基礎実験実習	2
	心理アセスメント実習	2
	卒業論文	6

科目区分	大項目	単位数
心理学 基礎科目	心理学概論	2
	心理学研究法	2
	心理学統計法	2
	心理学基礎実験実習	2
	心理検査実習	2
	心理面接実習	2

卒業論文の重視 「参照基準 心理学分野」

心理学の方法論を体得でき、問題発見能力や、課題解決能力、長期的に自ら研鑽を継続して積む能力が身につけられる。
心理学の本質的な学習は、卒業研究の過程で完成する。

1-1 大学における必要な科目 2.心理学発展科目

1. **すべて必修科目**。選択科目は国家資格・国家試験としてなじまない。
2. 公認心理師の**5領域**の科目を含む(赤字斜体の部分)。
3. 世界標準の**生物・心理・社会**の3領域を含む(A・B・C系列)
とくに**生物学的心理学**の知識(身体・脳・薬物療法など)は、医療分野の公認心理師には不可欠。決して「学者」を養成するために必要なのではない。
4. F系列「**臨床医学**」と「**精神医学**」の両方必修。

科目分類名	大項目	中項目	単位数
2. 心理学 発展科目	A 認知心理学関連科目	認知・知覚心理学 (思考心理学を含む)	2
		学習・言語心理学 (行動分析学を含む)	2
		感情・人格心理学 (深層心理学、感情科学を含む)	2
	B 生物学的心理学関連科目	認知神経科学 (生理心理学を含む)	2
		神経心理学 (臨床神経心理学、臨床神経学を含む)	2
		比較心理学 (比較認知科学、比較行動学、動物心理学、進化心理学を含む)	2
	C 社会・産業心理学関連科目	社会・集団心理学 (対人関係論、家族心理学を含む)	2
		産業・組織心理学	2
		福祉心理学 (コミュニティ心理学、社会福祉学を含む)	2
	D 発達・教育心理学関連科目	発達心理学 (乳幼児心理学、児童心理学、青年心理学、高齢者臨床心理学、老年心理学、生涯発達心理学を含む)	2
		教育心理学 (教育評価、教授心理学、学校心理学を含む)	2
		障害児(者)心理学 (発達臨床心理学、教育臨床心理学を含む)	2
	E 臨床心理学関連科目	臨床心理学(心理療法論・カウンセリング心理学、認知行動療法論、集団心理療法論、リハビリテーション心理学を含む)	2
		心理検査法	2
		医療心理学 (健康心理学、ストレスマネジメント論を含む)	2
		司法・矯正心理学 (犯罪心理学を含む)	2
	F 隣接関連科目	臨床医学 (内科学、小児科学を含む。また医療の実践に必要な知識を含む)	2
		精神医学	2
教育学 (学校教育制度論、教育経営学、社会教育学を含む)		2	

1-1 大学における必要な科目

三団体案の科目をほぼすべて含む

すべて必修科目とする

選択科目は国家資格・国家試験になじまない理由

① **公平性**: 受験者によって選択した科目が異なると、国家試験に不公平が生じる危険

② **質の担保**: 選択科目制だと、5領域すべての科目を履修しない受験者も出る危険

科目分類名	大項目	中項目
心理学発展科目	A 認知心理学 関連科目	認知・知覚心理学（思考心理学を含む）
		学習・言語心理学（行動分析学を含む）
		感情・人格心理学（深層心理学、感情科学を含む）
	B 生物学的 心理学関連科目	認知神経科学（生理心理学を含む）
		神経心理学（臨床神経心理学、臨床神経学を含む）
		比較心理学（比較認知科学、比較行動学、動物心理学、進化心理学を含む）
	C 社会・産業 心理学関連科目	社会・集団心理学（対人関係論、家族心理学を含む）
		産業・組織心理学
		福祉心理学（コミュニティ心理学、社会福祉学を含む）
	D 発達・教育 心理学関連科目	発達心理学（乳幼児心理学、児童心理学、青年心理学、高齢者臨床心理学、老年心理学、生涯発達心理学を含む）
		教育心理学（教育評価、教授心理学、学校心理学を含む）
		障害児(者)心理学（発達臨床心理学、教育臨床心理学を含む）

2.心理学発展科目

社会・産業心理学関連科目を例にとると

三団体案 心理学発展科目

A 基礎心理学関連科目
学習心理学、知覚心理学、認知心理学、思考心理学、言語心理学、比較心理学、生理心理学、神経心理学、動物心理学、比較行動学、行動分析学、感情心理学

B 発達・教育心理学関連科目
発達心理学、乳幼児心理学、児童心理学、青年心理学、生涯発達心理学、教育心理学、教育評価、教授心理学、学校心理学

C 社会・産業心理学関連科目
社会心理学、実験社会心理学、**集団心理学**、対人関係論、家族心理学、**コミュニティ心理学**、**産業心理学**、**組織心理学**、**マスメディア心理学**

D 臨床心理学関連科目
臨床心理学概論、心理検査法、人格心理学、発達臨床心理学、教育(学校)臨床心理学、障害児(者)心理学、犯罪心理学、司法・矯正心理学、医療心理学、高齢者臨床心理学、心理療法論、深層心理学、カウンセリング心理学、認知行動療法論、集団心理療法論、健康心理学、ストレスマネジメント論

E 隣接関連科目
医学概論、精神医学概論、教育学(学校教育制度論、教育経営学、社会教育学を含む)、**社会福祉学**

1-1 大学における必要な科目 3.心理実践・実習科目

3. 心理実践・実習科目

三団体案

科目分類名	大項目	単位数
3. 心理実践・実習科目	心理面接実習	2 必修
	公認心理師概論 (職務、責任、倫理、関連行政論、対人コミュニケーションスキルを含む)	2 必修
	心理実践実習 (医療・教育・福祉の領域における見学あるいはボランティア等の体験実習)	2 必修

科目区分	科目名	単位数
心理実践・実習科目	心理実践職能論 (職務、責任、倫理、関連行政論を含む)	2 必修
	心理実践実習 (医療、福祉、教育、司法・矯正、産業などの領域における見学・体験実習)	2 必修

1-1 大学における必要な科目

評価

1. 「標準シラバス」(下記)を作り、「理解すべきねらい」と「教育に含むべき事項」を策定して教育内容を担保する。のちには標準教科書を作成する。
2. 試験実施機関は各大学の科目の認定をおこない、教育の質を担保する。
3. 大学の科目担当教員は、標準シラバスを参考に、シラバスと到達目標を公表。教員は、各学生の到達度の可否を試験やレポートで評価。

標準シラバス (「心理学概論」を例にとると)

科目分類名	大項目	中項目	単位数 (時間数)	内容	理解すべきねらい	教育に含むべき事項
心理学基礎科目	心理学概論	—	2単位 30時間	現代心理学の全体像を知り、心理学の固有の考え方や理論を知る	A 心のありか	a 心理学の視点
						b 行動の基本様式
						c 発達—遺伝と環境
					B こころのはたらき	a こころを支える身体器官の働き
						b 感覚と知覚
						c 学習と記憶
						d 思考と言語
						e 感情と動機付け
					C 個人のこころを彩る	a 発達
						b パーソナリティー
						c 知能
						d こころの異常
					D 集団とこころ	f こころの健康の保持と回復
						a 態度と説得
						b 対人魅力と対人関係
					E こころの探求	c 集団の中の個人
						a こころの概念の歴史的変遷
						b 生物科学としての心理学
						c 現代心理学の展開

29科目すべてで作成済み

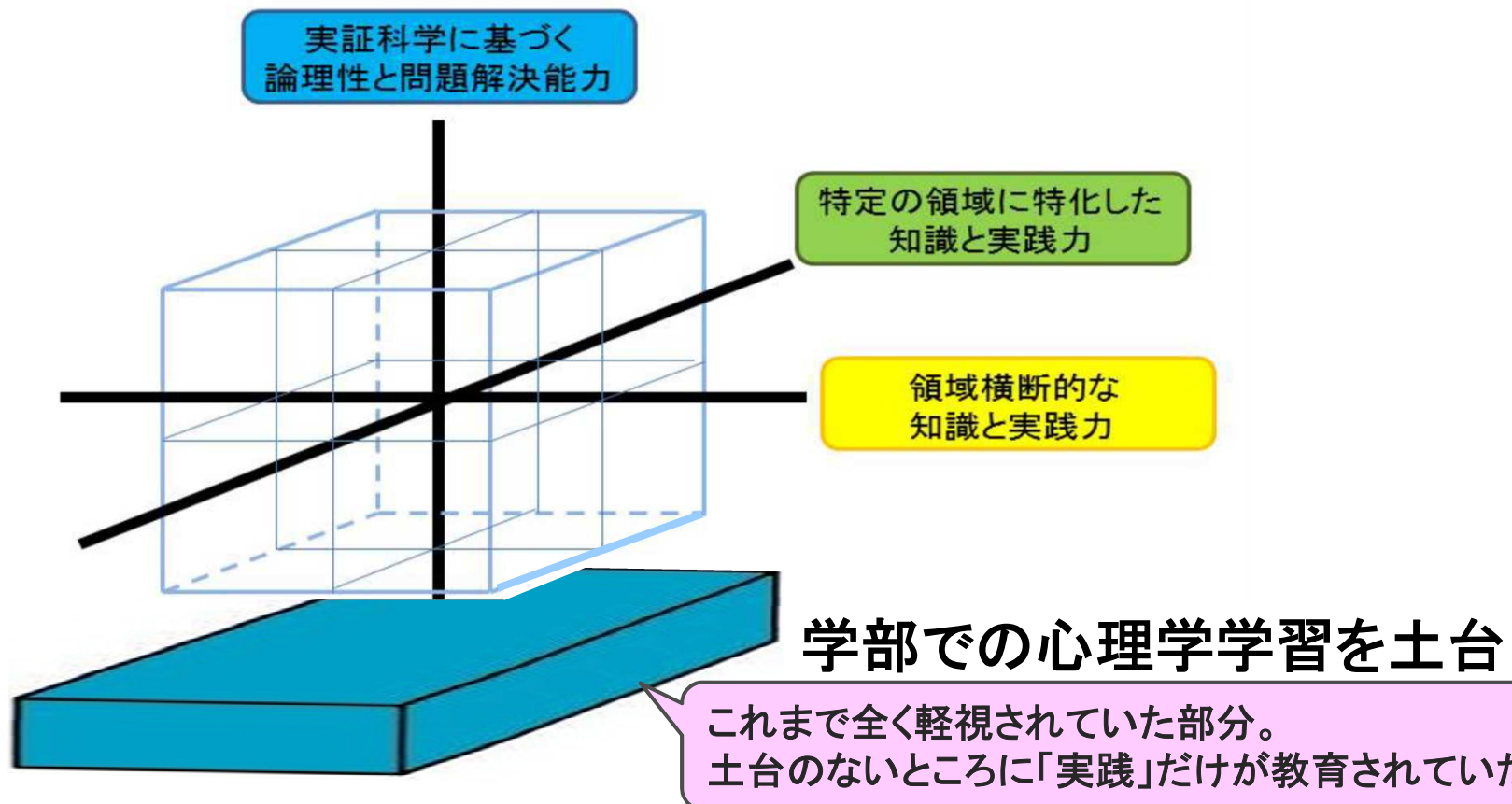
1. カリキュラム

1-2 大学院における必要な科目

公認心理師大学院カリキュラム

目標

高度専門職業人として、公認心理師業務の主要5領域において即戦力になりうる高い専門知識と技能を有する実践家を養成



1-2 大学院における必要な科目

方法

「公認心理師大学院カリキュラム」

科目分類名	大項目	中項目	単位数	
公認心理師専門科目(必修)	臨床心理学	臨床心理面接特論	2	
	心理検査・査定法	心理検査・査定法特論	4	
	公認心理師実践学		医療心理学特論	2
			教育臨床心理学特論	2
			福祉心理学特論	2
			産業臨床心理学特論	2
			司法臨床心理学特論	2
公認心理師実技共通科目(必須)	心理実習特論	心理相談・援助基礎演習	2	
公認心理師専門科目(選択) (中項目2つ以上を選択必修)	公認心理師実践演習		4	
		医療心理学・臨床神経心理学演習	2選択	
		教育相談・進路指導演習	2選択	
		障害者支援技術演習	2選択	
公認心理師実技選択科目(選択) (中項目2つ以上を選択必修)	現場実習 (180～210時間)	(現場実習の単位は、実習に対する実習指導が行われたことをもって、単位認定を行う)		
		現場実習事後指導	4	
		保健医療領域実習指導	②	
		教育領域現場実習指導	②	
		福祉領域現場実習指導	②	
心理学共通専門科目(必修)		心理学研究法特論	2	
		心理学特別研究	2	
計			30	

1-2 大学院における必要な科目

評価

各科目ごとに評価方法は異なる

公認心理師専門科目 (必修)	各科目の到達目標に設定されている知識および知識に基づく展開能力について、試験、レポート、講義時の発言や討論などの状況を踏まえて総合的に評価する。
公認心理師実技共通科目 (必須)	学内の相談室等における実技演習への参加状況、対応能力の習熟度、ケースカンファレンスでの発言、ケース報告書の作成状況などを踏まえて、総合的に評価する。
公認心理師専門科目 (選択)	公認心理師業務に関連する各領域の実践に必要な知識および知識に基づく展開能力について、学生が自ら設定する現場実習計画の立案状況やそれに基づくグループディスカッションでの発言等を踏まえて、総合的に評価する。
公認心理師実技選択科目 (選択)	現場実習の参加状況、実習計画書に基づく取り組みの到達レベル、実習指導者による実務評価、スーパービジョンのための資料作成状況等を総合的に評価する。
心理学共通専門科目 (必修)	文献展望、研究課題の立案、妥当な方法論の構築、データ収集及および分析、データに基づく論理的な考察、プレゼンテーション能力等について、研究指導教員の評価および修士論文公開審査会等の評価に基づいて総合的に評価する。

1-3 大学院における実習・演習

構成 「演習(事前指導)」→「現場実習」→「実習指導(事後指導)」が重要
 領域 現場実習は、保健医療を必修として複数領域にわたる必要あり
 時間数 180時間～210時間は必要

事前指導

実習に必要な
知識技能の習得

現場実習

(180時間～210時間)
 臨地における実務経験と
 現場実習指導者による指導

実習事後指導

実務経験の心理学的理解と
 スーパービジョン

医療心理学・
臨床神経心理学演習

保健医療領域
現場実習

保健医療領域
現場実習指導

必修

教育相談・
進路指導演習

教育領域現場実習

教育領域
現場実習指導

選択

障害者支援演習

福祉領域現場実習

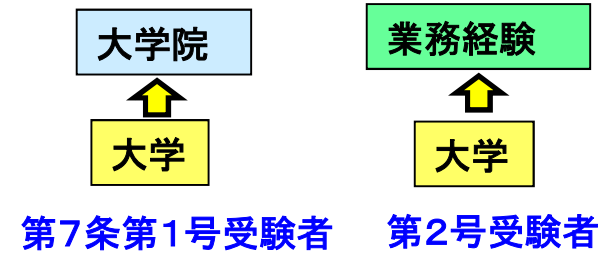
福祉領域
現場実習指導

選択

医療を含む
2領域以上を
選択して
180時間～
210時間

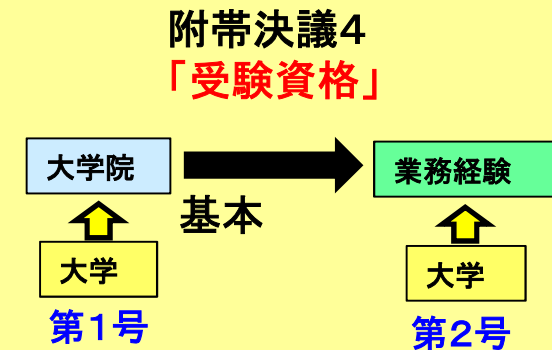
2. 国家試験

第1号受験者と2号受験者の平等性



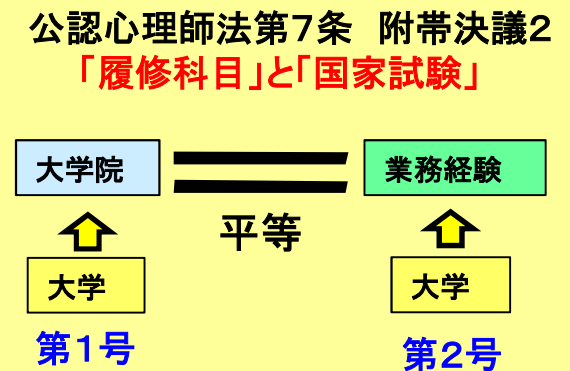
受験資格の決め方

附帯決議4では、「大学院が基本」と書かれているが、これは、「**受験資格**」について第2号受験者の「**業務年数**」や「**施設**」を規定する省令の決め方を定めたもの。ただし、**履修科目**や**国家試験**について直接に定めるものではない。



履修科目と国家試験の1・2号平等性

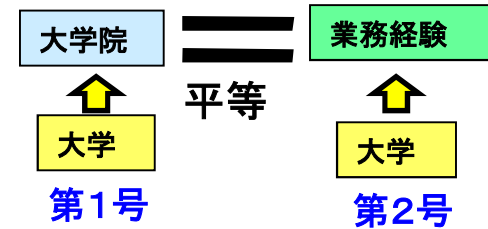
「**履修科目**」や「**国家試験**」を定めるのは**附帯決議2**だが、ここでは「**大学院が基本**」とは書かれていない。**公認心理師法7条**と**附帯決議2**では、「**履修科目**」や「**国家試験**」について、第1号と第2号受験者は**平等**に書かれている。
法的には2号受験者を不平等に扱うことはできない



2. 国家試験

第1・2号受験者の平等性の意味するところ

「履修科目」と「国家試験」



1) 国家試験の内容を規定

- a) 大学院のみで教えられる知識は、国家試験には出題できない。
出題したら第2号受験者からクレーム。
- b) 大学院での科目は、第2号受験者が「業務」の中で獲得できる場合だけ出題できる。
- c) 大学学部で学んだ知識は出題できる (第1号と2号で共通なので)

2) 履修科目を規定 (学部と大学院の分業)

公認心理師の試験＝「知識」＋「技能」

公認心理師法第5条 「試験は、公認心理師として必要な知識及び技能について行う」

- A) 上のbより、大学院で学ぶ内容は、第2号受験者が業務の中で獲得できるものに対応しなければならないので、「技能」が中心となる。
- B) 「技能」以外の「知識」は大学学部で学んでおかなければならない。
学部では「知識」を中心に学ぶことになる。

2. 国家試験

第1・2号受験者の平等性の意味するところ

1) 国家試験の内容を規定

2) 履修科目を規定
(学部と大学院の分業)

	国家試験の内容	履修科目
大学学部	大学で獲得した 「知識」を出題	大学では「知識」を 履修
大学院 2号受験者	大学院か業務で獲得 した「技能」を出題	大学院と業務では 「技能」を履修

2. 国家試験

	国家試験	履修科目
大学	知識	知識
大学院/実務	技能	技能

第1・2号受験者の平等性から導かれる指針(1) 国家試験

国家試験の出題方針

「技能」の試験は、大学院か業務で獲得する体系にもとづいて出題

「知識」の試験は、学部のカリキュラムにもとづいて出題しなければならない

⇒出題は「公認心理師 学部カリキュラム」と「標準シラバス」(9ページ)を基本

公認心理師
学部カリキュラム
〈再掲〉

科目分類名	大項目	中項目
1. 心理学 基礎科目	心理学概論	
	心理学研究法	
	心理学統計法	
	心理学基礎実験実習	
	心理アセスメント実習	
	卒業論文	
2. 心理学 発展科目	A 認知心理学関連科目	認知知覚心理学 学習言語心理学 感情人格心理学
	B 生物学的心理学関連科目	認知神経科学 神経心理学 比較心理学
	C 社会・産業心理学関連科目	社会集団心理学 産業組織心理学 福祉心理学
	D 発達・教育心理学関連科目	発表心理学 教育心理学 障害児(者)心理学
	E 臨床心理学関連科目	臨床心理学 心理検査法 医療心理学 司法矯正心理学
	F 隣接関連科目	臨床医学 精神医学 教育学
3. 心理実 践・実習科目	心理面接実習	
	公認心理師概論	
	心理実践実習	

公認心理師の5領域が
含まれる(赤字斜体)

国家試験の「知識」問題を学部カリキュラムから出すことの利点

- 1) **法的な公平性**: 第1号2号受験者の間の法的な公平性を担保できる。
- 2) **公認心理師の質の担保**: 学部で5領域の知識を満遍なく学習するので公認心理師の質を担保できる。

(2. 国家試験)

	国家試験	履修科目
大学	知識	知識
大学院/実務	技能	技能

第1・2号受験者の平等性から導かれる指針(2) 履修科目

2) 履修科目を規定 (学部と大学院の分業)

- A) 大学院で学ぶ内容は、第2号受験者が業務で獲得できるものに対応しなければならないので、「**技能**」が中心となる。
- B) 学部では「**知識**」を中心に学ぶことになる。

履修科目を学部と大学院で分業することの利点

- 1) **法的な公平性**: 第1号2号受験者の間の法的な公平性を担保できる。
- 2) **履修の無駄を省ける**: 公認心理師の「**知識**」教育は大学学部で完成。大学院では「**技能**」教育に専念でき、学部の内容をくりかえす必要がない。
学部4年＋大学院2年の「6年教育」で公認心理師を養成できる。
心理学ワールドと関連団体全体で公認心理師制度を育てられる。
- 3) **大学院生の資質の担保**: 学部で、心理学や5領域の知識を獲得できた意欲と能力の高い学生が大学院に進む

2. 国家試験

国際的互換性を担保するために海外の国家資格を参照すべき。
アメリカの心理師(サイコジスト)は、①名称独占で、②領域汎用の、③国家資格である点で、日本の公認心理師と類似。
出題内容は、実務は30%で、**基礎的な心理学が50%**を占める

アメリカの心理師(サイコジスト)のライセンス

名称独占の国家資格(州ごとの資格)

心理学の領域・実践場所・職務内容を特定しない汎用資格

受験資格: 博士号の取得+インターンシップ

筆記試験(EPPP): **全米共通の国家試験** 合格率約50%

筆記試験(EPPP)の出題内容	出題割合	
1 行動の 生物 学的基盤	11%	} 生物・心理・社会 統合モデル 36%
2 行動の 認知的・情動的 基盤	13%	
3 行動の 社会的 ・多文化的基盤	12%	
4 成長と生涯発達	13%	} 基礎的心理学 50%
5 査定(アセスメント)と診断	14%	
6 治療・心理療法	16%	} 実務 30%
7 研究方法	6%	
8 倫理・法律・職業問題	15%	